

地域で光る製品・技術

〜かごしま産業おこし工房から〜

下・独自技術発信編

今回は、独自の発想と技術に基づき多様な取り組みを発信する、鹿児島県内の代表的な環境関連企業を紹介する。

(堀内義之)

断熱施工で5℃低下

ウエルフクヤマ(霧島市、0995・56・2777)は、既設の折板屋根などに、重ねぶきすることで断熱リフォームができる「ウエルフクヤマシステム工法」を展開している。

大波スレート屋根などが劣化している建物は多く、断熱性や職場環境などの面で問題を抱えている。

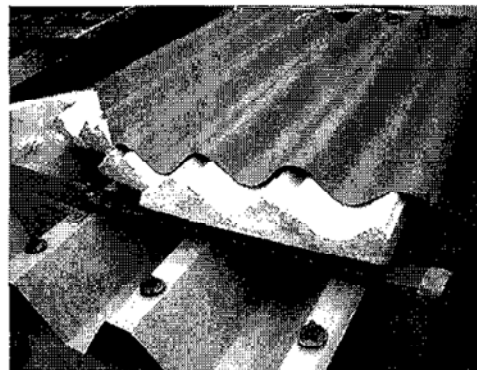
そこで、屋根の上に成形した断熱材と、金属屋根を設置する工法を開発した。「既設屋根への断熱屋根ぶき工法」(「リフォーム屋根ぶき断熱材」として特許を取得している)。

実測では、施工によって内部の温度が約5℃下がると確認。瓦屋根など、多種の屋根に対応できるという。鎌田政弘代表取締役は、「断熱性

に優れたリフォームが簡単にできる工法として、地域を中心に施工実績も増えている。今後とも一層の拡大を図りたい」としている。

土木工事に使用すれば、木製柵に比べ透水性と適度な腐食性に優れており、より自然な植生の回復に適しているという。県による試験使用の結果、「通常使用している塩化ビニル管と施工性、排水性とも同等の効果を得られた」とされて

に土木工事に使用され、木製柵に比べ透水性と適度な腐食性に優れており、より自然な植生の回復に適しているという。県による試験使用の結果、「通常使用している塩化ビニル管と施工性、排水性とも同等の効果を得られた」とされて



(上)ウエルフクヤマの屋根リフォーム工法(下)ソフトウェイは、竹を資材として見直す(写真は施工例)



竹活用や屋根補修などで創意

資源の有効活用プロジェクトを推進中だ。全国の竹林の異常な増殖を防ぎ、里山の再生を図るべく、大量の竹を公共事業や生活に生かす活動を展開している。竹ノダを円筒状

いる。特にビオトープなど水辺の空間に使用するのが最適な資材として啓発に取り組み。

的な工法を現代に置き替えて提案しているものだ(福永一郎専務)。

BDF、紫外線浄水も南光(鹿児島市、099・263・0450)は乾式を採用すること

は、植物性の廃食用油を水で、水洗による大量の排水をなくした。複数の反応精製プロセスを自動化する装置「ME・X・チエンジャー」を軸にした

向上も図っている。2000年、かごしま産業技術賞の大賞を受賞して

降、鹿児島大学と共同で商品化したものだ。これまで40件程度の納入実績があり、その約半数が自治体や公立学校など公共向けとなっている。

さらにサンコーテック(伊佐市、0995・22・6488)は、紫外線殺菌浄水装置「SGIシリーズ」を展開する。用途としては、例えば水産業界で冷凍魚介類の解凍に使う海水や、井戸水、温泉水、養殖場用水などの殺菌向けだという。水の流れに漏れなく紫外線を照射するシステムとすることで、「大腸菌やレジオネラ菌だけでなく、一般細菌の殺菌も可能になった。水産試験場などに納入を開始したところだ」(市来政一取締役設計開発部長)とのことだ。(終わり)